

温泉帳

温泉旅行は根強い人気なのに、温泉地の活性化にはつながっていない。温泉法を所管する環境省は、こうした現状を日帰りの温泉入浴が増えたことが一因、と分析している。

活性化のための一つの試みが温泉地での認知症予防だ。脳の認知機能の老化などを調べる「ものわすれドック」と、予防エクササイズや栄養指導などを組み合わせた2泊3日の滞在型。5月に日本理学療法士協会、環境省、長野県上田市が協定を締結し、江戸時代からの湯治場である同市の鹿教湯温泉地から

温泉地で認知症予防

泉で、リハビリテーション機能も充実している鹿教湯病院がモデル事業の実施先選ばれた。9月スタートを目指す。

事業の旗振り役で、予防エクササイズに関わる同協会の野崎展史のびあき主任は「認知症の予防には、有酸素運動などが効果がある。また、地元の宿泊施設に泊まってもらうことなどで、地域全体が潤うようにしたい」と話す。

日常から離れられる温泉地の魅力もアピールし、3者で事業の広がりを目指す。

【堀井恵里子】